



国際的な規制機関と研究機関は、グリホサート（ラウンドアップの主成分）の健康への影響をどのように考えていますか？

リスク評価

暴露量（摂取量）に基づき、人に健康被害があるリスクはどの程度でしょうか？

 <p>United States Environmental Protection Agency アメリカ合衆国環境保護庁</p>	アメリカ	人の健康に関するリスク評価において、 グリホサートは人に対しての発がん性がある可能性は低い。 （そして）農薬ラベルに従って製品を使用した場合、 人の健康に対してリスクはない。	2017
	アメリカ	EPAは、農薬の使用を許可する前に、食品に残留する農薬の許容量の設定、または使用制限をする。食品および飲料商品に、微量のグリホサートが含まれている場合があるが、これらの 微量は人の健康に影響があるものではない。 子どもが、 グリホサートに敏感であることを示す兆候もない。	2019
	アメリカ	EPAはグリホサートの暴露に関連する潜在的な人への健康リスクを評価したが、現在登録されているグリホサートによる人への 健康リスクはないと判断した。 また人に対して 発がん性の可能性が低い。	2020
 <p>United States Environmental Protection Agency アメリカ合衆国環境保護庁 農薬プログラム事務局</p>	アメリカ	(IARCの報告に対して) 根拠の重みに基づく「 発がん性の可能性の示唆的根拠 」に関して、支持をしない。発がん性に関して「統計的にも有意ではない程度の研究」に対してさえ、同等以上の質の研究によって反論されている。そのため 「人に対して発がん性の可能性は低い」ということを強く支持する。	2017
 <p>National Toxicology Program 国家毒性プログラム</p>	アメリカ	「(グリホサートが) 毒性があるという根拠は、ほとんどない 」またグリホサートが、DNAを傷つけるという根拠は存在しない。	1992
 <p>カナダ保健省</p>	カナダ	グリホサートを含む製品を、改訂された製品ラベルの仕様書に従って使用した場合、 容認できない人の健康や環境へのリスクがもたらされることはない。 (職業として)グリホサートを使用する人に対するリスクは、あらゆる状況における懸念ではない。 世界中の農業規制機関は、グリホサートは現在人へ暴露されているレベルでは、人に対してがんのリスクがあるとは考えていない。	2017 2019
 <p>EUROPEAN CHEMICALS AGENCY 欧州化学機関</p>	EU	(IARCの報告に対して) 疫学データと、ラットやマウスを使った長期的な研究のデータに基づいて、根拠の重みに基づくアプローチを採用しているが、この (IARCの) 発がん性の危険分類には正当性がない。	2017
 <p>European Food Safety Authority 欧州食品安全機関</p>	EU	グリホサートは 遺伝毒性を持たない、また人に対して、発がん性がある可能性が低い。 (IARCの報告に対して) 疫学データも動物研究の根拠も、グリホサートへの暴露と人ががんを発症する因果関係を示していない。	2015
	EU	グリホサートで処理されたすべての作物を対象として、安全性のレビューを行った。現在の人への暴露レベルが、 人の健康にリスクをもたらしとは考えられないというリスク評価を含んでいる。	2018
 <p>Agence nationale de sécurité sanitaire de l'alimentation, de l'environnement, et du travail 国立食品、環境、労働安全衛生庁</p>	フランス	動物および人への発がん性の根拠レベルは、比較的限定されていると考えられている。	2016
	フランス	すべての遺伝毒性リスクを排除できる 科学的データの不足や欠如 により、フランス市場で入手できる(グリホサートを含む) 69製品のうち 36製品は、2020年末から使用許可がされない。	2019
 <p>Bundesinstitut für Risikobewertung ドイツ連邦リスク評価研究所</p>	ドイツ	入手できるデータは、 グリホサートの発がん性や変異原性を示していない。 またグリホサートは、実験動物で生殖能力や生殖または胚、胎児の発達に対して 毒性があることを示していない。	2015
 <p>スイス連邦食品安全獣医局</p>	スイス	調査したグリホサートの食品への残留は、 がんのリスクを表していない。	2018
 <p>Australian Government Australian Pesticides and Veterinary Medicines Authority オーストラリア農薬・動物用医薬品局</p>	オーストラリア	グリホサートは人に対して 発がん性のリスクがない。 グリホサートを含む製品は、ラベルの指示に従って安全に使用できる。	2016
 <p>Environmental Protection Authority Te Mana Rauhi Taiao 環境保護庁</p>	ニュージーランド	人に対して 発がん性または遺伝毒性(遺伝物質またはDNAに損傷)の可能性は低い。 (IARCの報告に対して) そのため変異原、または発がん物質として分類すべきではない。	2016
 <p>Agência Nacional de Vigilância Sanitária ブラジル国家衛生監督庁</p>	ブラジル	除草剤のグリホサートが、 発がん性があることを示す根拠はない。	2019
 <p>Food Safety Commission of Japan 食品安全委員会</p>	日本	グリホサートには、 神経毒性、発がん性、生殖毒性、催奇形性、遺伝毒性はなかった。	2016
 <p>Rural Development Administration 韓国農村振興庁</p>	韓国	グリホサートに関する疫学研究において、 がんとの関連性は見つからなかった。	2017
 <p>World Health Organization 世界保健機関</p>	国際機関	グリホサートは、 予想される食事での暴露量で、遺伝毒性を示す可能性は低い。 グリホサートは、食事での暴露量で人に 発がん性のリスクをもたらし可能性は低い。	2016
 <p>World Health Organization 世界保健機関飲料水品質ガイドライン</p>	国際機関	通常の条件では、飲料水中のグリホサートと AMPA (アミノメチルホスホン酸、グリホサートの主な代謝産物) の存在は、 人の健康に危害を与えることはない。	2004
 <p>World Health Organization 世界保健機関国際化学物質安全計画</p>	国際機関	ラウンドアップを散布する人の職業的な被ばくについての入手できるデータは、関連する動物実験からの NOAELs (観測された有害作用がないレベル) よりはるかに低い被ばくレベルを示している。	1994

長期的な研究

1993年以降に、54,251名のグリホサート散布者にどのような影響がありましたか？

 <p>Agricultural Health Study 農業健康調査</p>	アメリカ	グリホサートと、 固形腫瘍がん及び非ホジキンリンパ腫や亜型を含むリンパ性悪性疾患全般との間に、明白な関連性は認められなかった。 最も高い被ばくグループで、AML (急性骨髄性白血病) のリスクが増加した根拠については、 確認が必要	2018
--	------	---	------

ハザード評価

暴露量は関係なく、人に健康被害がある可能性は何でしょうか？

 <p>International Agency for Research on Cancer World Health Organization 国際がん研究機関</p>	国際機関	グリホサートの人の 発がん性に関しては、根拠が限られている。 人に対する根拠は、主に農業従事者(例: 食事暴露によるものではない)の暴露量の研究からなるものだ。非ホジキンリンパ腫との関連性が観察されている。グリホサートまたはグリホサートを主成分とする製品の暴露が、 遺伝毒性であるという強力な根拠がある。 IARCは、グリホサートのハザードカテゴリーを赤身の肉、温かい飲み物、および理髪師と同じ「 グループ2A: おそらく人に発がん性がある 」に分類した。この発がん性の根拠は、ベーコン、魚の塩漬け、経口避妊薬、ワインより強くない。	2015
--	------	--	------

出所: What do global regulatory and research agencies conclude about the health impact of GLYPHOSATE? [https://geneticliteracyproject.org/wp-content/uploads/2019/03/GlyphosateInfographic_GLP-1.pdf] より抜粋要約・翻訳
Glyphosate, United States Environmental Protection Agency [https://www.epa.gov/ingredients-used-pesticide-products/glyphosate] より抜粋要約・翻訳
Glyphosate: safety of residue levels reviewed, European Food Safety Authority [http://www.efsa.europa.eu/en/press/news/180517] より抜粋要約・翻訳